



専門医更新始末

渡島医師会
望ヶ丘医院

田中 慈雄

今年は専門医資格更新の年になる。平成10年から専門医になり5年ごとの更新なので、4回目の更新だ。別に専門医など認定してもらわなくても良いのだが、私の場合診療報酬に影響を与えるものなので、与えるといっても塵も積もればなんとやら、のチリのようなものだが、2年ごとの診療報酬改定でチリのような増点に注目している身なれば、やはり更新せざるばなるまい。ただ、今回の更新は今までと違い、日本専門医機構とやらが介入してきた最初の年になった（なんでも事情があり介入が1年延びて今年になった、とのこと）。学会事務局は今年から5年かけて（事務局は機構認定という言葉を使用していた）機構認定に移行していくが、それまでは学会認定の専門医資格でも何ら不都合は無いので、別に無理して機構認定での専門医資格更新の必要は無い、とのことであった。だがしかし、5年後には機構認定オンリーになり、今不都合は無いと言われてもいつ反故になるかも分からんし、反故になっても誰も責任などとってくれないだろうから、機構認定で更新することにした。

さて、機構認定で更新するにはどうしたらよいか情報を集めると、診療実績の証明、専門医共通講習、専門科領域講習、学術業績・診療以外の活動実績の点数(単位)、を合計して5年間で50単位を要し、今年機構認定で更新する場合は1/5の10単位を要する、とのこと。診療実績の証明はできるが上限4単位、学術業績・診療以外の活動実績は…町民講座やったっけな、あれはいつだったか？ 資料ない。となると専門医共通講習、専門科領域講習を受けるしかない。その講習が行われるのは4月の学会総会で、そのスケジュールは学会日程表が送られてきて初めて確認できた。日程表を確認する。専門医更新に関係する講習は軒並み早朝から行われる。日程表とにらめっこし、広い広い学会場を効率よく回るために、聞きたいセッションでは無く、聞かなければならないセッションに参加予定のチェックを入れる。願わくは面白い講演内容であることを祈る。

学会が始まる。講習の出席管理は、学会より配布されているICカードを使い、講習の最初の入室時と最後の退室時にカードリーダーにカードをかざすことでなされる。カードリーダーの数には限りがあり、その数だけ列ができ、結果として長蛇の列になる。

その列に講習会の座長が巻き込まれ、開始時間が遅れた。その座長が学会の専門医認定の担当理事で、「こうなることは予想していませんでした」と述べていた。私は予想していたぞ。すでに他学会で、専門医更新関連の講習会で長蛇の列を作り、関連しないセッションはガラガラだったって、話題になってたじゃん。情報収集が甘いな。いつもは参加者が乏しそうなシンポジウムも、ものすごい人で立ち見も出ている。面白くなくても途中退室では単位にならないので、我慢して聞く。演者ですら、いつもはこんなに人がいないので気が楽ですが、今日は緊張します、面白くないので恐縮です、と。謙遜なら良いのだが、本当に恐縮してほしい、と思ったのは私だけであろうか。また、普段は学会にエントリーだけしてすぐにいなくなる出身医局の顔見知りや何人も会場で見かけた。うちの医局だけではないはずだ。おかげで、いつもに増して人が多い。

混乱の学会を終え、専門医更新の書類作成に入る。が、申請書類が送られてこない。平成30年2月吉日に送られてきたハガキには、今後のスケジュールとして、4月下旬認定更新のための申請書類送付、5月上旬認定更新申請の受付開始、6月末日認定更新申請の受付締切、9月中旬審査結果送付、と記されているのに、5月末日になっても書類が来ない。心配になって事務局に電話してみる。日本専門医機構からの何らかの連絡？が無いので遅れている、とのこと。柔らかい感じの応対だったが、それでは申請受付締切も遅らせるのか聞いたら、「それはありません、締め切りは予定通りです」ときっぱり言われた。申請書類は6月4日に届いた。申請書の記載にいくつか疑問があり、何度か事務局に電話して聞く。分かったような、分からないような…。短気な私がよくもここまでお付き合いしたが、「分からないけど、分かった。あとは私の思うように申請書に記載するから、あとはそちらで見てください」と宣言し、書類を作成した。多分大丈夫だと思うけど、ダメだったらどうしよう。再提出かな。お役所じゃないから、大目に見てくれるかな。それにしても、この日本専門医機構というものの意義が今一つよく分からない。賛否いろいろと意見はあるだろうが、確実なのは制度によって、私の専門医としての能力が上がったとは到底思えないということと、申請に伴う新たな料金がかかる、ということである（ただ、本年度はかからないのだそうだ）。日本の専門医制度が良くなることを祈って、書類を投函する。あー疲れた。